

## 第2章 対象事業に係る事後調査の 項目、手法及び時期・期間

2.1 事後調査	2-1
2.2 環境保全措置	2-3

## 第2章 対象事業に係る事後調査の項目、手法及び時期・期間

### 2.1 事後調査

事後調査の項目、手法及び時期・期間は表 2-1 に示すとおりである。

表 2-1 (1) 事後調査の項目等

調査項目		調査地点	調査時期・期間	調査方法
工事計画確認調査		—	工事期間中	・工事計画等の把握、集計による方法
水質	工事に伴う水の汚れ	施工箇所内からの工事排水の先の沢 2地点 工事を実施しない沢1地点	■工事施工期間中の毎日1日3回 (工事開始前、施工中、施工後) ・平成31年1月15日～3月29日	・ポータブル多項目水質計を用いる方法 ・SSは、濁度から換算する方法
	工事に伴う水の濁り			
動物	注目すべき種の生息状況	湧水湿地 (貧養地小型植物群落)	■アズマヒキガエルの産卵時期 ・平成30年4月18日 5月29日 ・平成31年2月27日 3月19日	・直接観察法
	水生生物	魚類及び底生動物	■夏季 ・平成30年7月17～18日 ■秋季 ・平成30年9月27日～28日	■魚類 ・任意採取法 ■底生動物 ・任意採取法 ・定量採取法
	希少猛禽類(主にクマタカ)	対象事業実施区域の端部から約1kmの範囲	■行動確認調査 ・平成30年2月11～14日 3月13～16日 4月17～20日 5月15～18日 6月11～14日 7月18～21日 8月7～10日 ・平成31年2月27～28日 3月19～20日 ■営巣中心域調査 ・平成30年9月11～12日 10月23～24日 11月12～13日 12月11～12日 1月30～31日 2月27～28日 ■繁殖状況調査 ・平成30年6月15～16日 7月16～17日	■行動確認調査 ・定点観察法 ■営巣中心域調査 ・定点観察法 ■繁殖状況調査 ・直接観察法

表 2-1 (2) 事後調査の項目等

調査項目		調査地点	調査時期・期間	調査方法
植物	注目すべき種の生育状況 ・ミズニラ ・ムラサキミミカ キグサ ・ヒナノシャクジ ヨウ ・マシカクイ	湧水湿地 (貧養地小型植物群落)	■夏季 ・平成30年7月27日 ■秋季 ・平成30年9月12日	・直接観察法 ・定点観察法
生態系	希少猛禽類 (主にクマタカ)	・動物の希少猛禽類 (主にクマタカ) と同じ ・事後調査結果についても、動物の希少猛禽類 (主にクマタカ) に記載		
	指標種の生息・生育状況	・動物及び植物の注目すべき種の生息・生育状況と同じ ・事後調査結果についても、動物及び植物の注目すべき種の生息・生育状況に記載		
	湧水湿地の植生		■夏季 ・平成30年7月27日	・踏査等により、相観植生図を作成
	湧水湿地の流量及び濁度	湧水湿地 (貧養地小型植物群落)	■夏季 ・平成30年7月27日 ■秋季 ・平成30年9月12日 11月13日 ■冬季 ・平成31年1月22日 ■春季 ・平成31年3月19日	■流量 ・容器法 ■濁度 ・ポータブル多項目水質計を用いる方法

## 2.2 環境保全措置

環境保全措置の項目及び時期・期間等は表 2-2 に示すとおりである。

また、環境保全措置（移設・移植）を実施した動物及び植物の生息・生育状況に係る事後調査の項目、手法及び時期・期間は表 2-3 に示すとおりである。

表 2-2 環境保全措置の項目等

実施項目		実施場所	実施時期・期間	
保全対象種の移設・移植	動物の移設			
	アズマヒキガエル	■ 仮設産卵池の設置 ・産卵に適した「水深の浅い仮設の産卵池」を設置した。 ■ 卵塊・幼生の移設 ・工事中に工事裸地等の水溜りに産卵が確認された場合に、卵塊及び幼生を捕獲し、仮設産卵池に移設した。	変更される産卵環境の近傍 1 地点  ■ 仮設産卵池の設置 ・平成31年1月22日  ■ 卵塊・幼生の移設 ・平成31年3月6日	
	トウカイナガレホトケドジョウ	・事業計画の変更により、トウカイナガレホトケドジョウの生息する沢の改変を回避したため、トウカイナガレホトケドジョウの移設は実施しないこととした。		
	植物の移植	ホナガタツナミソウ	■ 生育状況の確認 ・開花時期に生育場所の現地踏査を実施し、生育個体にマーキングを行った。	生育場所 6 地点  ■ 生育状況の確認 ・平成30年4月17日～18日 ・平成30年4月23日 ・平成30年5月9日 ・平成30年5月11日 ・平成30年5月29日
		エビネ	■ 移植の実施 ・開花後の時期に生育個体の移植を実施した。	生育場所 6 地点
タチキランソウ		・ホナガタツナミソウ、エビネ、タチキランソウは、事業に伴い整備が計画されている調整池周辺に移植する計画であったが、調整池整備前に移植を実施する必要があるため、仮移植地へ移植した。	生育場所 6 地点	
ウスギムヨウラン			生育場所 1 地点	
移動経路の確保	魚道の設置	トウカイナガレホトケドジョウ	・事業計画の変更により、トウカイナガレホトケドジョウの生息する沢の改変を回避したため、トウカイナガレホトケドジョウの移動経路の確保（魚道の設置）は実施しないこととした。	

表 2-3 事後調査の項目等

調査項目		調査地点	調査時期・期間	調査方法	
動物	移設した 保全対象 種（動物） の生息状 況	アズマヒキガエル	仮設産卵池	<b>■アズマヒキガエルの 産卵時期</b> ・平成31年2月27日 3月6日	・直接観察法
		トウカイナガレ ホトケドジョウ			
植物	移植した 保全対象 種（植物） の生育状 況	ホナガタツナミソウ	保全対象種 の移植先	<b>■移植直後</b> 1回目：平成30年8月30日 2回目：平成30年9月7日 3回目：平成30年9月12日 4回目：平成30年9月21日	・直接観察法
		エビネ			
		タチキランソウ			
		ウスギムヨウラン			